

平成27年度生駒市環境シンポジウム

# ごみ減量、これからは正念場

—今ある環境を次世代へ—



大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システム。私たちがここから脱却しない限り、今ある地球環境を子どもたちの世代に継承することはできません。「ごみ半減」に挑戦して5年目、まだまだ達成には届きません。まさにごみ減量の正念場の今、もう一度私たちにできることを考えてみませんか。

費用無料  
申込不要

日時

11月29日(日)13:30～16:30(開場13:00)

場所

生駒市南コミュニティセンターせせらぎ(せせらぎホール)

生駒市小瀬町18番地(近鉄南生駒駅から徒歩約5分)

内容

京都大学助教の浅利美鈴さんによる基調講演

『『ごみ』との新たな関係性  
～断捨離、ミニマリスト、そして・・・～』



浅利 美鈴 / ASARI Misuzu

京都大学大学院工学研究科卒。博士(工学)。京都大学環境科学センター助教。「ごみ」が研究テーマで、ごみから見た社会や暮らしのあり方を提案する。また、ごみや3Rの知識を身につけ、行動してもらおうことを狙いに、毎年1月(第8回は2016年1月10日)に「3R・低炭素社会検定」を実施。その実行委員長を務める。

## パネルディスカッション

ごみ減量を推進するため、4月から家庭ごみの有料化がスタートしました。燃えるごみは昨年と比べ4月は19%減っていましたが、9月は8%減と徐々に低くなっています。その原因を探りながら、これからの方策について市民の方も交えて討論します。

<コーディネーター> 浅利 美鈴

<パネリスト>

生駒市自治連合会会長  
藤堂宏子

× ごみ減量実践者(市民)  
谷口タカ子

× 斑鳩町環境対策課長  
栗本公生

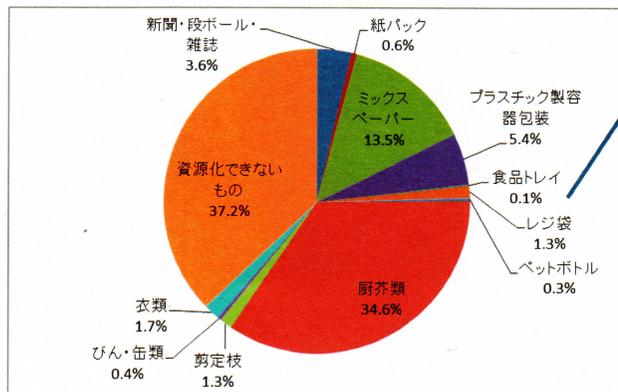
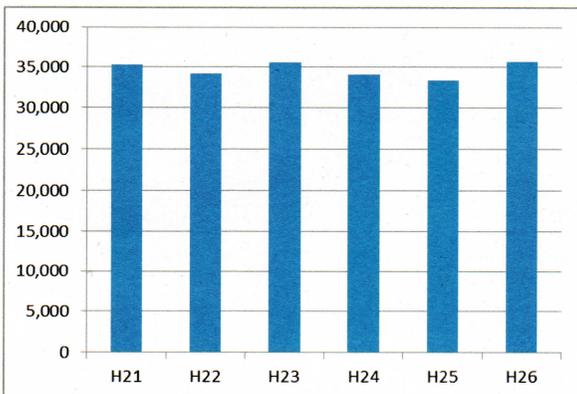
× 生駒市長  
小紫雅史

# 生駒市では 平成23～32年度までの10年間で 燃えるごみの半減に取り組んでいます。

## 【燃えるごみの中に含まれるものの割合(重量比)】

(平成27年3月に燃えるごみとして出されたものの中身を調査した結果です。)

【ごみ焼却量の推移】(単位:t)



資源化できるものが約60%含まれています。

ごみの分別や簡易包装などごみになるものを受け取らないことで、まだまだ燃えるごみを減らすことが可能です。  
ごみ減量にご協力よろしくお願いします！！

### 【市民の方が実践するごみ減量アイデアの一例】

- ◆野菜くずや果物の皮は、天日乾燥させてから捨てる。
- ◆ティッシュペーパーやキッチンペーパーなど使い捨てのものは使わず、ぞうきんやふきんなど布製のものを繰り返し使う。
- ◆生ごみはコンポストを利用して、ごみには出さない。
- ◆キャベツ、白菜、レタスの芯はお汁の具にして、その他乾燥できるものは粉末にして食べ、できるだけ食品を捨てない。

みんなで取り組もう！ごみ半減！

